

事例
3

あか牛とのふれあい学習

実施校：宮地小学校5年生、古城小学校4年生(阿蘇市)

※H24年度ショートスクール「秋編」より

■実施概要

宮地小学校の5年生と古城小学校の4年生、計98名は、国立阿蘇青少年交流の家が主催するショートスクール「阿蘇の草原キッズになろう～秋編～」に参加し、秋の草原であか牛とのふれあい学習を行いました。

地元の小堀牧野の協力により、あか牛と間近にふれ合い、組合長から放牧や草原の管理について現場のお話を聞くことで、草原とあか牛への興味も高まり、楽しい野外学習となりました。

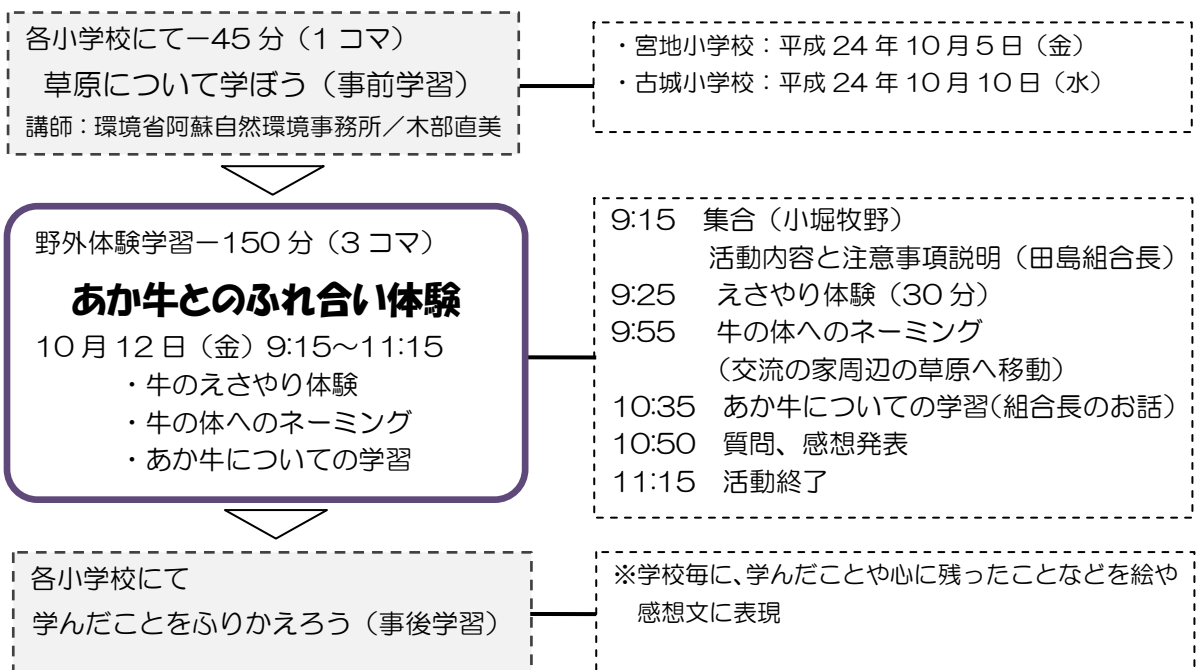
なお、ショートスクールへの参加にあたり、事前の学習で草原について基本的なことを学習し、実施後は、各学校でまとめの学習を行っています。

＜実施日＞平成24年10月12日(金)
 ＜実施時間＞9:15～11:15(3コマ)
 ＜参加者＞・宮地小学校5年生(82名)
 ・古城小学校4年生(16名)
 担任等の先生方
 ＜実施場所＞小堀牧野、国立阿蘇青少年交流の家周辺の草原
 ＜講師＞小堀牧野組合 田島今朝信組合長
 ＜準備するもの＞
 (学 校) 救急箱
 (子どもたち) 長靴、動きやすい服装、帽子、水筒、筆記用具、クリップボード、活動のしおり
 (主催者) みそ団子(フスマと味噌を混ぜたもの)、毛染め、刷毛
 ＜主催・コーディネーター＞
 国立阿蘇青少年交流の家

■学習のねらい

- ・身近にある草原の利用や自然について興味を持つ。
- ・草原と地域の産業や人々の暮らしとの関係を知る。
- ・草原の楽しさや素晴らしさを体感する。

■学習の流れ



■実施の様子

◇牛のえさやり体験

- ・牛の好物、みそ団子を差し出す子どもたち。
大きな牛と迫力ある舌におっかなびっくりでしたが、だんだん慣れてザラザラした舌の感触を楽しんでいる様子。



◇牛の背中にネーミング

- ・毛染めを使って、あか牛の背中に、それぞれが考えた名前やみんなに伝えたいメッセージを書きました。



◇あか牛についての学習

- ・あか牛とのふれ合い体験を通して感じたことや学んだことを発表。疑問に思ったことや、興味のあることなど組合長への質問もたくさん出ました。



■成果など

- ・普段は入ることのできない牧場でのエサやり体験や牛の背中へのネーミングなどを通して、牛の息づかいや舌の感触等に直にふれることができ、子どもたちにとって貴重な体験となった。
- ・あか牛の放牧や飼育について学ぶ中で、草原と地域の人々とのつながりに関心が高まった。

留意点

- ・放牧地は畜産の場で普段は立ち入りが禁止されている場所です。牧野組合の方の指導に従って行動しましょう。
- ・野外での学習は天候に左右されるので、雨の場合の予備日を設定したり、雨天の場合の代替活動を準備したりすることが必要となります。